

ポリオは、ワクチンによる 予防が大切です



ポリオは重症な場合、
手足の“まひ”などを引き起こします。
呼吸不全や肺炎で死亡することもあります。

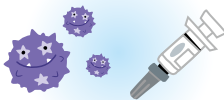


いったん起こった“まひ”は回復しない場合も多く、
後遺症につながります。

有効な治療法がなく、
ワクチン接種が唯一の予防法です。



ポリオの後遺症により
足に“まひ”が残った幼児



<http://www.cdc.gov/polio/us/photos.html>

もっと知りたいポリオワクチン

<http://vaccine-net.jp>



サノフィ株式会社

〒163-1488
東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

SPJP.IPV.16.05.0083

SANOFI PASTEUR

ポリオの予防を
より確かに、
4~6歳の
お子様に
ワクチンの
2回目追加接種



ポリオ感染のリスクは、 まだ存在しています



国内では、1981年以降野生株のポリオウイルスによるポリオ患者は報告されていませんが、一部の国ではいまだにポリオの発症が報告されています。感染は国境を越えて広がるケースもあり、旅行者などがウイルスを日本に持ち込むリスクもあります。

● 2015年にポリオ発症が確認された国

野生株ポリオウイルス



アフガニスタン パキスタン

ワクチン由来株ポリオウイルス



ギニア ラオス マダガスカル ミャンマー ナイジェリア ウクライナ

これらの国から
日本への入国者数(2014年)*

47,569人



* 国籍ごとの入国者数

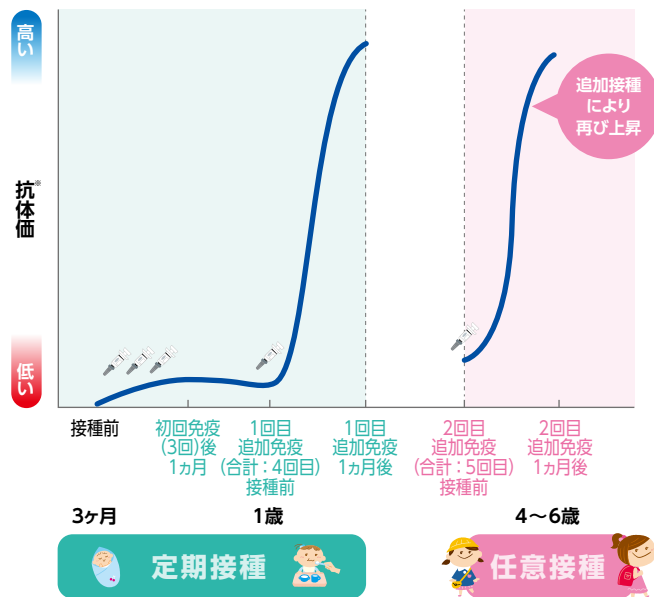
法務省 出入国管理統計統計表 http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_jchiran_nyukan.html
ポリオ発生国の情報 <http://www.polioeradication.org/Dataandmonitoring/Poliothisweek.aspx> (2015年12月18日アクセス)

追加接種によって 抗体価*が上昇します



不活化ポリオワクチンは接種から時間が経つと抗体価が低下することが知られています。抗体価が低下すると、ポリオ感染を予防する力が失われ、再び感染のリスクにさらされます。より長い間ポリオ感染を予防するためには、追加接種が必要です。

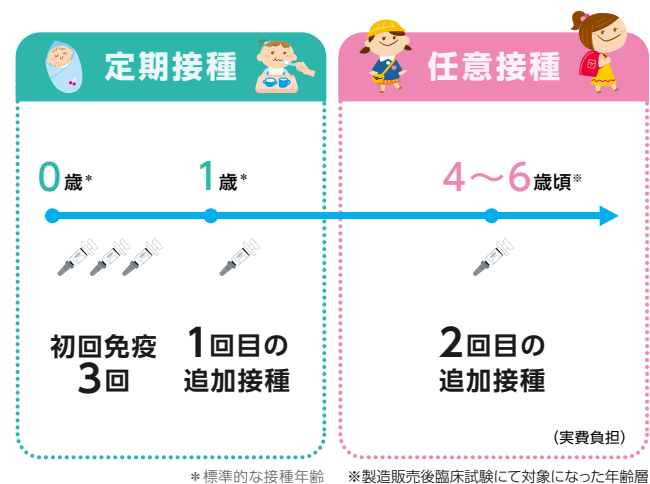
● 不活化ポリオワクチン接種と抗体価の変化(イメージ図)



* 抗体価：感染を予防する力を数値で表したものの

欧米諸国の多くでは、4歳以降に 追加接種が実施されています

不活化ポリオワクチンは接種から時間が経つと感染を予防する力が低下してきます。4~6歳時に追加接種をすると、ポリオ感染を予防する力がより高く維持されます。初回免疫3回と1回目の追加接種は定期接種ですが、就学前の追加接種は任意接種(実費負担)になります。



詳しくは、かかりつけ医にご相談ください。

